

京都市上下水道事業中期経営プラン(2023－2027)

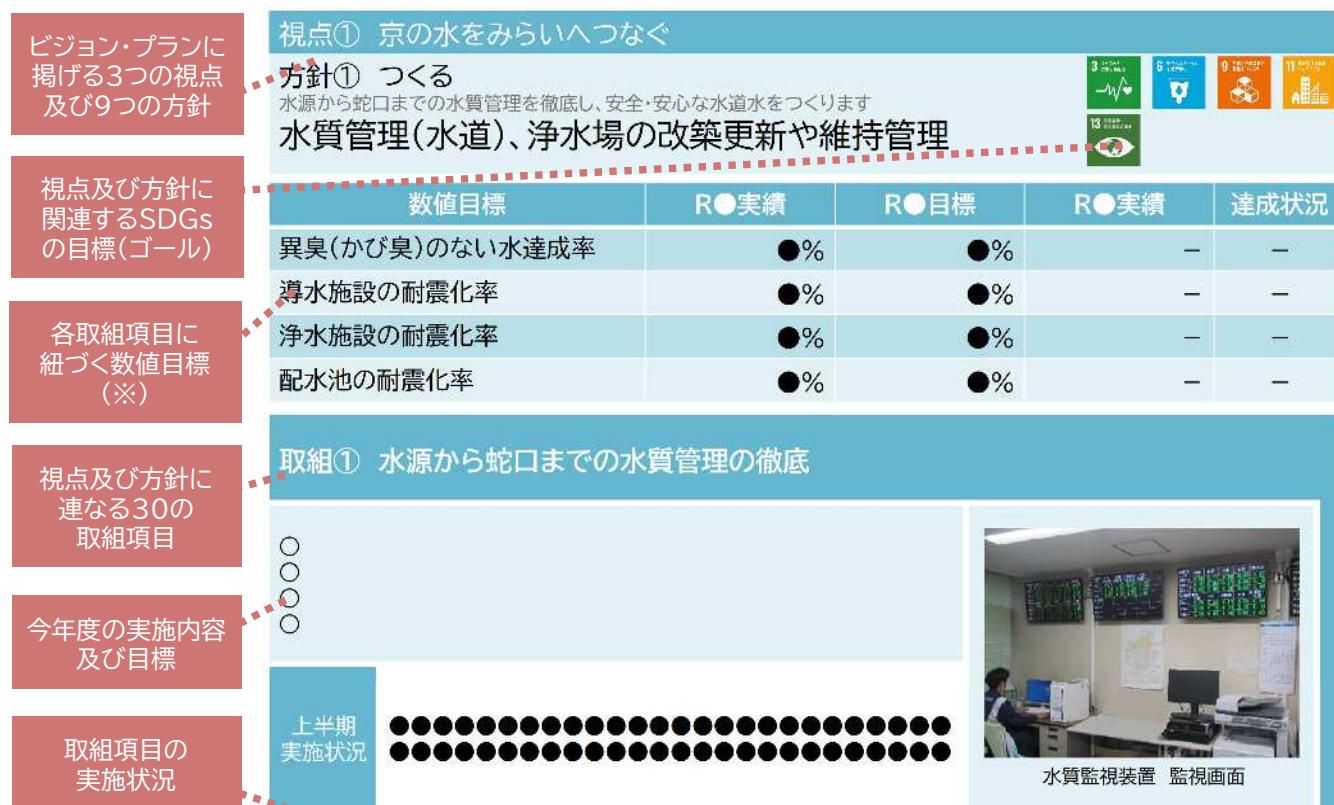
令和6年度計画 上半期実施状況

令和 7 年 1 月



【各取組項目の見方】

- 上下水道局では、平成30年3月に策定した「京都市上下水道事業経営ビジョン(2018-2027) 京(みやこ)の水ビジョンーあすをつくるー」(以下、「ビジョン」という。)及びその後期5か年の実施計画「中期経営プラン(2023-2027)」(以下、「プラン」という。)に基づき事業を推進しています。
- 単年度計画では、ビジョン及びプランに掲げる以下の3つの視点と9つの方針に連なる30の取組項目ごとに実施状況を管理しています。



※ 事業が完了し数値が向上する年度以外は数値目標を「設定なし」としています。

上下水道局はSDGsを推進しています

SDGs(エスディーゼズ)は、「誰一人取り残さない」を合言葉に、人権、格差是正、教育、環境、平和など、持続可能な社会の実現を国際社会全体で目指す17の普遍的なゴール(目標)と、169のターゲット(達成基準)であり、実現に向けて各国政府だけでなく、地方公共団体や企業等の主体的な取組が求められています。

SDGsの理念や方向性等については、ビジョン及びプラン等と共通するものであり、上下水道局は、ビジョン及びプランのもと、SDGsの達成に向けた取組を推進しています。



関連するSDGsの目標(ゴール)



【目次】 取組項目一覧

3つの視点	9つの方針	30の取組項目	頁
視点① 京の水を みらいへ つなぐ	①つくる	① 水源から蛇口までの水質管理の徹底	2
		② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進	
		③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化	
	②はこぶ	① 配水管等の適切な維持管理の推進	3
		② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化	
		③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上	
		④ 下水道管路の適切な維持管理の推進	4
		⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化	
		⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨	
	③きれいにする	① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上	5
		② 水環境保全センター施設の再構築	
		③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善	
	④まもる	① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化	6
		② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化	
		③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進	
	⑤いどむ	① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究	7
		② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮	
		③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成	
視点② 京の水で こころを はぐくむ	①こたえる	① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化	8
		② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開	
		③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進	
	②ゆたかにする	① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献	9
		② 創エネルギー・省エネルギーによる脱炭素社会の実現への貢献	
		③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献	
視点③ 京の水を ささえ つづける	①になう	① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上	10
		② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携	
	②ささえる	① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減	11
		② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化	
		③ 将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化	12
		④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討	

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針① つくる

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

水質管理(水道)、浄水場の改築更新や維持管理



数値目標	R5実績	R6目標	R6実績	達成状況
異臭(かび臭)のない水達成率	99.2%	100%	—	—
導水施設の耐震化率	26.8%	※設定なし	—	—
浄水施設の耐震化率	75.5%	※設定なし	—	—
配水池の耐震化率	53.8%	※設定なし	—	—

※ 事業が完了し数値が向上する年度以外は数値目標を「設定なし」としています。

取組① 水源から蛇口までの水質管理の徹底

- 令和6年度水道水質検査計画に基づく原水及び水道水の水質検査の実施
- 令和7年度水道水質検査計画の策定
- 水道GLPの認証に係る中間審査
- 水安全計画の運用、見直し

上半期 実施状況

- ・水質検査計画に基づき、原水及び水道水の検査を実施
- ・令和7年度水道水質検査計画の策定に向けた検討
- ・水質検査に際しては、水道GLPに基づき手順書を見直すなど、精度の高い検査を実施するとともに、GLPサーベイランスに向けた準備を実施
- ・水安全計画に基づき水質管理を実施、適正に運用



水質監視装置 監視画面

取組② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進

- 高機能な粉末活性炭の注入
- 蹴上浄水場における高機能な粉末活性炭注入設備設置工事実施(R4事業開始・R7運用開始予定)
- 松ヶ崎浄水場における高機能な粉末活性炭注入設備工事実施(R5事業開始・R8運用開始予定)
- 処理プロセスの最適化、高度化に向けた検討
- 水道施設に関する基本情報や修理履歴等データベースの活用

上半期 実施状況

- ・原水のかび臭原因物質が過去最高濃度となり、高機能な粉末活性炭を最大限注入したが、一時的に水質基準値を超過(8月中旬～9月上旬)
- ・蹴上浄水場の粉末活性炭注入設備設置工事は完了し、松ヶ崎浄水場は工事を継続実施
- ・実験プラント設置工事を完了し、浄水処理プロセスの検討を開始
- ・水道施設台帳管理システムを用いて、データを適切に管理・運用

取組③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化

- 新山科浄水場導水トンネル築造工事実施(H29事業開始・R10運用開始予定)
- 新山科浄水場1系浄水施設改良工事実施(R5事業開始・R7工事完了予定)
- 新山科浄水場低区1・2号配水池耐震化工事実施(R5事業開始・R7工事完了予定)

上半期 実施状況

- ・新山科浄水場導水トンネル築造工事は、シールド工事を継続実施
- ・新山科浄水場1系浄水施設改良工事は、工事に着手
- ・新山科浄水場低区1・2号配水池耐震化工事を継続実施



新山科導水トンネル築造工事
(トンネル掘進の様子)

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

水道・下水道管路の改築更新や維持管理(1)



数値目標	R5実績	R6目標	R6実績	達成状況
有収率	91.7%	91.9%	—	—
老朽配水管の解消率	52.5%	57.1%	—	—
主要管路の耐震適合性管の割合	60.3%	61.5%	—	—

目次

視点①

視点②

視点③

取組① 配水管等の適切な維持管理の推進

- 配水管の洗浄作業(「京(みやこ)の水道管おそうじプロジェクト」)の実施
- 漏水調査の実施
(一般漏水調査 約2,200km、漏水分布調査 約6,800か所)

上半期 実施状況

- ・「京(みやこ)の水道管おそうじプロジェクト」を6回実施
- ・漏水調査における上半期予定分をすべて実施
(一般漏水調査1,135km/約2,200km、
漏水分布調査3,604か所/約6,800か所)



京の水道管おそうじプロジェクト
(消火栓操作)

取組② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化

- 老朽化した配水管の更新・耐震化の実施 55km
- 低区御池連絡幹線配水管 布設工事実施
(H26年度事業開始・R7年度工事完了予定)

上半期 実施状況

- ・老朽化した配水管(補助配水管含む)耐震化工事を実施
(27km)
- ・地震等災害時における給水のバックアップ機能強化のための各連絡幹線配水管布設工事を継続実施



配水管工事

取組③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上

- 貯水槽水道の設置者への啓発・助言
- 直結式給水のPR
- 全指定給水装置工事事業者を対象とした研修の実施(3年に1回)
- 新規指定給水装置工事事業者を対象とした説明会の実施
- 指定給水装置工事事業者を対象とした更新制度の実施

上半期 実施状況

- ・貯水槽水道の管理状況調査を実施
- ・直結式給水に関する情報を局ホームページに掲載するとともに、貯水槽水道設置者への直結式給水への切替えに関する情報を提供
- ・全指定給水装置工事事業者を対象とした研修(11月)に向けテキスト及び資料を作成
- ・新規指定給水装置工事事業者説明会を実施(6月・9月)
- ・更新対象となる指定給水装置工事事業者に対し、更新手続きを完了(9月)

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

水道・下水道管路の改築更新や維持管理(2)



数値目標	R5実績	R6目標	R6実績	達成状況
下水道管路改築・地震対策率	31.5%	34.8%	—	—

取組④ 下水道管路の適切な維持管理の推進

- 下水道管路の計画的な巡視や点検調査
- 腐食のおそれ大きい箇所(point)の点検調査 2.3km

上半期 実施状況

- ・市内全域でデータベースを活用した巡視点検を実施し、特に国道下の下水道管路について重点的に点検を実施
- ・腐食のおそれ大きい箇所の管きょ等について、順次点検調査を実施



下水道管路の巡視・点検の様子

取組⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化

- 下水道管路の調査及び改築・地震対策の実施 33km
- ポンプ場遠方監視制御設備改築工事着手
(R6年度事業開始・R8年度運用開始予定)

上半期 実施状況

- ・老朽化した管路や重要な管路の中でも、特に破損等のリスクが高い旧規格の管路を対象として、計画的に管路内調査を実施
- ・管路リニューアル工事及び管路地震対策工事で管路の布設替えや管更生を実施
- ・ポンプ場遠方監視制御設備改築工事発注に向けた準備を実施



下水道管路の更生工事

取組⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨

- 全戸訪問による水洗化勧奨の実施
- 工場・事業場への立入検査 年間1,200回以上

上半期 実施状況

- ・訪問、文書投函等による水洗化勧奨を実施
- ・貸付金や高齢者向けの助成金等、水洗便所設置に係る各助成制度による支援
- ・工場・事業場の水質に係る立入検査を実施(上半期立入検査回数 723回)

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針③ きれいにする

下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

水質管理(下水)、水環境保全センターの改築更新や維持管理



数値目標	R5実績	R6目標	R6実績	達成状況
高度処理管理目標水質達成率	100%	100%	—	—
処理施設の改築更新数	年間10施設	年間11施設	—	—

取組① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上

- 点検整備計画に基づく施設の定期整備の実施
- 基本情報や修繕履歴等のデータベースの運用・更新
- 水質管理計画の見直し・継続運用
- 効果的・効率的な運転管理に関する調査・研究の実施

上半期 実施状況

- ・点検整備計画に基づき、施設の定期整備を実施
- ・基本情報や故障修繕履歴等データベースの整理を継続実施
- ・目標水質達成のため、水質管理計画において試験項目・頻度を定め、効果的な水質管理を実施
- ・水環境保全センターの運転管理や水質分析に関する調査・研究を継続実施

取組② 水環境保全センター施設の再構築

- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事実施
(R5年度事業開始・R9年度運転開始予定)
- 鳥羽水環境保全センター沈砂池改築工事着手
(R6年度事業開始・R11年度運用開始予定)
- 鳥羽水環境保全センター吉祥院支所の貯留水を鳥羽水環境保全センターへ送水

上半期 実施状況

- ・汚泥焼却炉改築工事を発注し、工事に向けた準備を実施
- ・沈砂池改築工事発注に向けた準備を実施



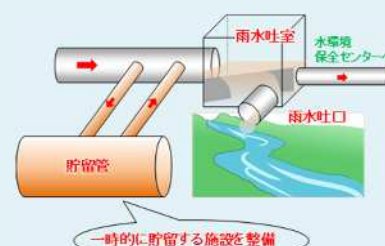
鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉

取組③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善

- 合流式下水道改善対策施設の継続運用

上半期 実施状況

- ・合流式下水道改善対策施設を適切に継続して運用
- ・水質基準に係るモニタリングを適切に実施



貯留管による対策イメージ

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針④ まもる

市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

防災・減災対策(公助、共助・自助)や浸水対策



数値目標	R5実績	R6目標	R6実績	達成状況
飲料水の備蓄率	55.6%	62.4%	—	—
雨水整備率(10年確率降雨対応)	33.1%	34.8%	—	—

取組① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化

- 各種計画、マニュアル及びBCPの運用、点検及び見直し
- 災害を想定した実践的なマニュアル運用訓練及び研修の実施
- 大都市や京都府内の自治体、民間事業者との防災訓練、情報交換の実施
- ICTを活用した防災・危機管理情報発信の開始
- 仮設給水槽の増台 15基(R6末:58基)
- 防災拠点等への仮設給水槽の配備、運用
- 災害用マンホールトイレの継続的な整備 18か所(R6末:203か所)

上半期 実施状況

- ・災害派遣を踏まえたマニュアル等の見直し
- ・職員への防災危機管理研修等を実施するとともに、民間事業者や他都市、京都府内自治体との防災訓練に向けた調整を実施
- ・防災・危機管理情報の発信ツールについて検討
- ・仮設給水槽の購入準備や能登半島地震を踏まえた災害時の運用検討
- ・小中学校に災害用マンホールトイレの整備工事を継続実施



マンホールトイレ
(左上は設置時の様子)

取組② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化

- 災害用備蓄飲料水の積極的かつ効果的な啓発活動
- 自助に関する情報発信の充実及び強化
- 各区役所・支所と連携した自主防災組織への防災研修の実施
- 各行政区、学区、地域等が主催する防災訓練への参加
- 共助に関する情報発信の充実及び強化

上半期 実施状況

- ・各種イベントや事業PRリーフレットにおいて、災害用備蓄飲料水や備蓄の必要性について啓発
- ・能登半島地震を踏まえ、新たな上下水道に関する防災パンフレットとして、災害時お役立ち冊子「大地震! どうなる? 京の上下水道」を作成し、配架先を調整
- ・自主防災組織へ出前トーク等を通じた防災情報の提供を実施
- ・京都市総合防災訓練(11月)をはじめとした市内防災訓練に向けた調整を実施

取組③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進

- 鳥羽第3導水きょ工事実施(R2年度事業開始・R9年度運用開始予定)
- 烏丸丸太町幹線工事実施(R2年度事業開始・R7年度運用開始予定)
- 伏見水環境保全センター雨水滞水池工事実施(R2年度事業開始・R6年度運用開始予定)
- 雨水貯留施設及び雨水浸透ますの普及促進
- 関係局区が連携した雨に強いまちづくりの取組の推進

上半期 実施状況

- ・市内中心部の浸水に対する安全度を向上させるため、各幹線工事の継続実施及び雨水滞水池の工事完了
- ・雨水貯留施設及び雨水浸透ますの助成を実施
- ・京都市「雨に強いまちづくり」推進本部会議の開催(5月)や合同地区別検討会を実施(7月)



鳥羽第3導水きょ
(発進立坑)

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針⑤ いどむ

新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます

新技術の調査・研究、広域化・広域連携等



数値目標	R5実績	R6目標	R6実績	達成状況
新技術の調査研究件数	年間50件	年間30件	—	—

取組① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究

- 新技術の調査・研究の実施
- 外部機関との共同研究の局ホームページによる募集、実施
- 各研究発表会(全国水道研究発表会、全国下水道研究発表会等)や論文掲載等での研究成果の発信

上半期
実施状況

- ・高画質カメラを活用した下水管内調査の効率的な調査手法や下水汚泥の減量化技術についての調査研究を継続実施
- ・全国下水道研究発表会及び日本水環境学会において研究成果を発表



取組② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮

- 「京都水道グランドデザイン」等関連計画に基づく広域化の在り方の検討
- 広域連携の取組の推進(共同研修、水質検査の受託、資機材の相互融通に向けた検討)
- 大都市や京都府内の自治体、民間事業者との防災訓練、情報交換の実施【視点①-方針④-取組①再掲】
- 上弓削農業集落排水事業の公共下水道事業への統合、維持管理開始
- 琵琶湖・淀川流域都市間の協議会等への参画

上半期
実施状況

- ・京都府主催の広域化・広域連携に係る会議に参加し、京都府及び府内自治体と協議
- ・京都府と共同で府内自治体の水道事業初任者を対象とした研修を実施(7月)
- ・民間事業者や他都市、京都府内自治体との防災訓練に向けた調整を実施(再掲)
- ・旧上弓削農業集落排水事業の管路、マンホールポンプ等の施設について、京北特定環境保全公共下水道事業の施設とともに一元管理を実施

取組③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成

- JICA等を通じた海外からの研修・視察等の受入れ
- 他都市との情報交換等の実施
- 職員の知識・技術力の向上(JICA能力強化研修等への受講機会の設定等)

上半期
実施状況

- ・他都市と合同で令和6年度JICA課題別研修「都市上水道維持管理」を実施(6・7月)
- ・上記研修にあたり、他都市との意見・情報交換を実施
- ・上記研修に講師として職員を派遣

目次

視点①

視点②

視点③

視点② 京の水でこころをはぐくむ

方針① こたえる

分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

お客さまサービス、広報・広聴活動



数値目標	R5実績	R6目標	R6実績	達成状況
サービスの利用全般に対するお客さま満足度	50.8%	70%以上	—	—
インターネットを活用したサービスの利用件数	年間50,241件	年間40,000件	—	—
広報活動の認知度	20.1%	35.0%	—	—

取組① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化

- 大口使用者利用状況調査による新たなサービスに関するニーズの調査、地下水等利用専用水道使用者への訪問・ヒアリング
- お客さま対応研修の実施・ご意見メール等への対応

上半期 実施状況

- ・大口使用者に対するアンケート調査を実施
- ・地下水等利用専用水道使用者に対し、適宜利用状況や課題について聞き取りを実施
- ・お客さま対応研修を実施
- ・ご意見メールに随時対応

取組② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開

- 手続きのオンライン化・ペーパーレスの調査・研究
- スマホアプリの構築・運用開始
- 新たなお客さまサービスの調査・研究
- 水道スマートメーターに関する調査・研究

上半期 実施状況

- ・スマホアプリ運用開始(10月1日)に向けた運用テストや広報を実施
- ・水道スマートメーターについて、公益財団法人水道技術研究センターが主催する「New-Smartプロジェクト」に参画し、調査研究を実施



京都市上下水道局アプリ
(画面イメージ)

取組③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進

- 上下水道事業への理解促進につながるイベント等の実施、広報紙の各戸配布
- 水需要喚起を図る広報活動
- クロスメディア広報の展開
- オンラインを活用した上下水道モニター制度等の実施

上半期 実施状況

- ・5年ぶりに一般公開を開催し、6日間で約3万人の来場(4月)
- ・水道週間、水の日及び下水道の日に関連するイベントを実施
- ・夏休み下水道施設見学会を実施(8月)
- ・祇園祭山鉦巡行をはじめ、各イベントで水道水や給水スポットのPRブースを出展
- ・上下水道モニターに対する見学会等を実施(6月)



一般公開(鳥羽の藤・蹴上のつつじ)

視点② 京の水でこころをはぐくむ

方針② ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやこころをゆたかにします

文化や景観、地球環境に配慮した事業運営



数値目標	R5実績	R6目標	R6実績	達成状況
琵琶湖疏水記念館来館者数	年間5.8万人	年間10万人	—	—
事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(H25比)	39%(※)	39%	—	—
汚泥有効利用率	68.7%	70.2%	—	—

※ R5年度の温室効果ガス排出量の算出に係る排出係数が未確定のため、直近(R4年度)の数値

取組① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献

- 疏水路の維持管理・整備
- びわ湖疏水船航路延伸便PR推進
- びわ湖疏水船スタッフの育成等の運営支援及び親子乗船会等
- 琵琶湖疏水関連施設の魅力向上策及び整備推進等
- 琵琶湖疏水記念館における賑わい創出に向けた整備

上半期 実施状況

- ・疏水路の緑地維持管理や施設の点検整備を継続実施
- ・インバウンド向け乗船会(11月)や多言語音声アプリの航路延伸対応に向けて調整中
- ・乗船ガイド及び操船者の人材育成に係る事業者と協議や親子乗船会を実施(5～6月)
- ・琵琶湖疏水沿線への案内サインの整備や蹴上インクラインドラム工場の調査・検討
- ・琵琶湖疏水記念館において「そすいカフェ」(3～5月)や特別展(6～12月)を実施するとともに、1階テラスの工事を実施中



琵琶湖疏水記念館テラス

取組② 創エネルギー・省エネルギーによる脱炭素社会の実現への貢献

- 省エネ・高効率機器の採用、照明のLED化による使用電力の削減
- 太陽光発電等の創エネルギーの取組の継続的運用
- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事実施【視点①-方針③-取組②再掲】
- 環境マネジメントシステムの継続的運用
- 環境報告書の発行

上半期 実施状況

- ・省エネ・高効率機器を導入した工事の発注や水質第2課庁舎の照明のLED化を実施
- ・局施設に設置した太陽光発電設備(14か所)及び小水力発電設備(1か所)の適切な管理により機能を維持し、継続的に運用
- ・汚泥焼却炉改築工事を発注し、工事に向けた準備を実施(再掲)
- ・4つの環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、全ての事業所が各EMSの実施計画に基づいた取組を継続実施
- ・環境報告書に掲載予定のデータや紙面構成等の更新作業を実施

取組③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献

- 固形燃料及び消化ガスの有効活用
- 焼却灰等の有効利用
- 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手【視点①-方針③-取組②再掲】

上半期 実施状況

- ・下水汚泥から生成された固形燃料化物は火力発電所で、消化ガスについては汚泥焼却炉の補助燃料として継続的に活用
- ・下水汚泥の焼却灰をセメント原料として利用
- ・汚泥焼却炉改築工事を発注し、工事に向けた準備を実施(再掲)

視点③ 京の水をささえつづける

方針① になう

これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、さずなを強めます

職員の育成、市民・事業者の皆さまとの連携



数値目標	R5実績	R6目標	R6実績	達成状況
技術系資格保持者の割合	42.6%	44.0%	—	—

取組① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上

- 中堅・若手職員に向けた体系的な技術研修の実施
(年間延べ受講者数500人)
- e-ラーニングの効果的な活用
(技術研修受講者への確認テストの平均点90点)
- 災害対応力やデジタル力向上に資する実践的な研修、資格取得支援制度の拡充
- 若手職員の活発な交流機会の創出
- コンプライアンス研修の実施
- 採用活動の充実化
- OJTを強化する取組や人事交流の推進
- 働き方改革の推進

上半期 実施状況

- ・専門技術研修及び中堅技術研修を実施(上半期実施講座
専門技術研修13講座、中堅技術研修3講座／上半期受講者
数352名)
- ・e-ラーニングを活用し上記研修内容に応じた確認テストを
実施(上半期平均点95点)
- ・体験型研修施設を活用した災害対応研修の実施や新規
採用研修や庁内誌を活用した資格支援制度の周知
- ・新規採用職員研修における先輩職員との交流等を実施
- ・コンプライアンス研修の実施やマネジメント研修の検討
- ・上下水道局独自採用専用サイトの開設(5月)やマイナビ
転職フェアへの参画
- ・OJT講座、メンター研修を実施するとともに、市長部局との
人事交流や、国・他団体等への派遣を実施
- ・働き方改革の一環としてモバイルワークを推進
- ・不祥事案件を受け、その原因等を調査中



下水道技術研修施設における
体験型研修の様子

取組② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携

- 水道・下水道のご利用等に係る情報発信
- 市民・事業者による水道技術研修施設の活用
- オープンデータの取組の推進
- 公契約基本条例に基づく取組の推進
- 緊急対応業務等の一般財団法人京都市上下水道サービス協会への
委託(継続)
- 上下水道サービス協会との災害時協定書に基づく取組の実施

上半期 実施状況

- ・京の水だよりminiVol.19を検針時に全戸配布(8～9月)
- ・水道技術研修施設において他都市向け研修及びすいどう
親子体験会を実施(8月)
- ・オープンデータの更新及び新規掲載
- ・案件ごとに分離分割発注の可否を精査するなど、市内中小
企業の受注機会増大に向けた調整を実施
- ・上下水道サービス協会に緊急対応業務等を委託するととも
に、同協会との災害時協定書に基づく協議等を実施



検針時配布リーフレット

視点③ 京の水をささえつづける

方針② ささえる

50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

事業の効率化など、長期的な視点に立った経営(1)



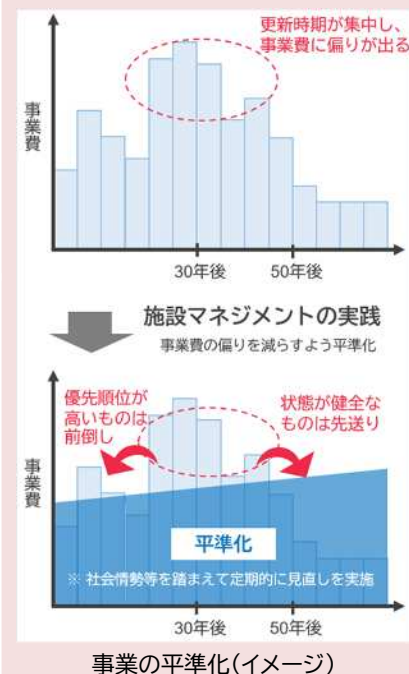
数値目標	R5実績	R6目標	R6実績	達成状況
下水道の大規模更新に備えた積立金の残高	69.3億円	94.4億円	—	—
企業債残高	4,005億円	3,965億円	—	—

取組① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減

- 管路及び施設等に関する情報のデジタル化の推進
- 管路の事業量・事業費の更なる平準化に向けた調査・検討
- 優先順位を踏まえた建設事業計画の作成・実施
- 庁舎長期修繕計画に基づく修繕の実施
- 工事検査の手法改善の継続実施

上半期
実施状況

・管路や施設等の基本情報をまとめたデータベースを適宜更新
 ・施設マネジメント推進プロジェクトチームにおいて、水道・下水道の管路の実態に即した目標使用年数の設定や、重要度に応じた更新の前倒しなどにより、事業量の平準化を検討し、将来の改築更新の事業費の見通しを検証
 ・建設事業計画及び庁舎長期修繕計画に基づき事業を推進
 ・工事検査書類の事前提出や検査体制の強化、検査制度に関する情報収集等を継続的に実施



取組② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化

- 第7期効率化推進計画に基づく組織・業務の再編、職員定数の減(△19人)
- 民間活力の導入の推進(水環境保全センター保守点検業務(鳥羽)の一部委託化)
- デジタル技術を活用した業務の効率化
- 新技術の導入に向けた調査・研究
- 業務システム用サーバ仮想化の実施

上半期
実施状況

・第7期効率化推進計画に基づき、組織・業務の再編、職員定数の減(△19人)を実施
 ・水環境保全センター保守点検業務(鳥羽)の一部委託化
 ・RPA等デジタル技術の継続活用、及び新規活用・導入に向けた検討を実施
 ・浄水・下水処理の高度化や水質管理、施設の維持管理等に関する新技術について情報収集を実施・共有
 ・業務システム用サーバについて、仮想化基盤の本運用を開始(4月)

目次

視点①

視点②

視点③

視点③ 京の水をささえつづける

方針② ささえる

50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます

事業の効率化など、長期的な視点に立った経営(2)



目次

視点①

視点②

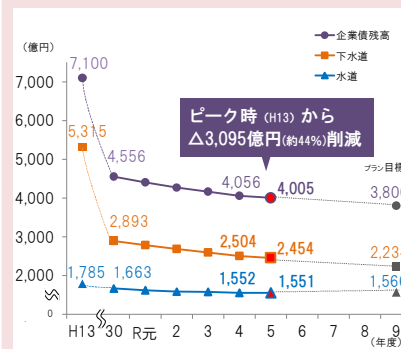
視点③

取組③ 将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化

- 資産維持費の活用等による企業債の発行抑制及びこれによる支払利息の削減
- 下水道大規模更新等に備えた積立金の確保
- 一般会計からの繰入金(出資金)の休止
- 保有資産の有効活用を検討及び売却・貸付の推進
- 上下水道局旧本庁舎跡地の暫定活用
- 新たな収入源の検討

上半期 実施状況

・積立金等のこれまでに確保した自己資金を活用し、企業債残高を削減するとともに、下水道大規模更新等に備えた積立金の確保に向け予算執行を管理
・一般会計からの繰入金(出資金)を引き続き休止
・保有用地の活用に向けた境界確定作業等の実施
・新たな収入確保に向けて、マンホール蓋のデザイン使用料収入に係る契約を締結(9月)



企業債残高の推移(令和5年度実績)

取組④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討

- 単年度事業計画の策定・実践及び進捗管理
- 経営審議委員会等の意見を踏まえた経営評価制度の充実及び実施
- 経営状況に係る情報発信
- 水道施設維持負担金制度の運用
- 将来を見据えた適正な水道料金・下水道使用料の在り方の検討

上半期 実施状況

・単年度事業計画を策定し、進捗管理を実施
・令和5年度決算や、経営審議委員会の意見を聴取・反映し作成した令和6年度経営評価等を局ホームページで公表するなど、経営状況に係る情報を発信
・料金制度に係る課題の抽出及び調査・研究を実施